

学生ならびに婦人のAIDSに関する知識調査

高山美佐子, 矢倉紀子*, 住田導彦

Misako TAKAYAMA, Noriko YAKURA and Michihiko SUMIDA

Surveillance of social awareness of AIDS among aged ladies and collegians

Acquired immunodeficiency syndrome(AIDS), エイズについては1981年にアメリカで正式に報告されて以来, その病原体human immunodeficiency virus(HIV)感染者数は激増の一途をたどっている。1993年6月の統計によれば HIV感染者は世界で約1,300万人, AIDS患者は718,894人であるが, 推計250万人といわれており, 1993年4月の統計によれば日本におけるHIV感染者は2,663人, AIDS患者は566人と報告されている¹⁾。しかしながら, 日本における実際のHIV感染者数は5千人から1万人以上とも幅広くいわれていて, 1991年以降2年間における増加率は, 年々2倍を上回る勢いである。HIV感染者の大半は20代の若者であり²⁾, 主な感染経路は異性間性的接触によるものであるといわれている。そのため日本においてはHIV感染を防止するため, 1993年からより総合的, 集中的な対策を行うための大幅な予算の増額が決定された。その対策のうちでも, AIDSに対する正しい知識の啓発普及が特に重要であるとされている。したがって我々はその対策のための基礎資料を作成する目的で, AIDSに関する知識, 認識度において一般的に異なると思われる調査対象群を設定し, アンケートの結果を比較し評価した。これらの対象群には鳥取大学医療技術短期大学部衛生技術学科1年生(a), 同2年生(b), 同3年生(c), 看護学科1年生(d), 同2年生(e), 同3年生(国立米子病院付属看護学校3年生, 境港済生会看護学校3年生を含む,f), 鳥取女子短期大学1年生(g), 米子工業高等専門学校4年生(h), 及び一般主婦グループとして米子保健所管内食生活改善推進員(i)が含まれる。

衛生技術学科, *看護学科

対象と調査方法

1993年5月から6月末にかけて無記名によるAIDSの知識, 認識に関するアンケート調査を行った。アンケートの設問内容はFig. 1に示す20項目とし, 各設問に対する正答を1点と採点し, 集計した。対象者の合計は822人であり, 内訳はTable 1に示した。アンケートの回答率は100%であり, 統計結果の有意差検定はt検定で行なった。

調査結果および考察

Table 1にAIDSに関するアンケートから得た性別, 正答得点を示した。性別に関してはhグループを除いて, すべて女性の多いグループを構成している。なおiグループは学生年令層とかけ離れて平均52.2才を示している。正答率に関しては全てのグループが80%以上であり, AIDSに関する認識度の高い対象群であるといえる。

Fig. 2はグループ別にみた得点の度数分布を示したものである, 詳細に見れば低得点者の存在するe, h, iグループがあることが明らかである。従って, 一般的にいえば, 男性グループや高齢グループに認識度が低い対象が混じるといえよう。Fig. 3はグループ別にみた正答得点に関する平均±標準偏差を示したものであり, b, cグループが高く, g, hグループが低いことが明らかである。従って医療系学生が非医療系学生よりも認識度が高いといえる。医療系学生間に関してはaはb, cグループより低

エイズの知識・認識調査

男, 女 年令 (無記名で解答して下さい)

★正しいと思うものに○を, 誤っていると思うものに×を付けて下さい

1. 血液製剤を使ってエイズに感染した血友病の人もいる。
2. 我が国でエイズの病原体に感染したのは異性間性的接触によるものが最も多い。
3. エイズの病原体が身体に入ると1か月以内に全身に赤い発疹がでる。
4. エイズの病原体に感染した人は5年以内に9割程度発病する。
5. エイズの病原体に侵されると身体の免疫機能が正常に働かなくなる。
6. エイズ感染者は様々な感染症にかかりやすい。
7. エイズの病原体はB型肝炎ウイルスより強い感染力がある。
8. エイズは遺伝病である。
9. エイズは他人の血を吸った蚊に刺されると感染することがある。
10. エイズに感染した人とキスするだけで感染する。
11. エイズの患者や感染者と風呂やトイレを共用すると感染することがある。
12. 麻薬や覚せい剤等の注射の回し打ちでエイズに感染することがある。
13. 妊婦がエイズの病原体に感染するとお腹の赤ちゃんも5割程度は感染している。
14. 献血で採血するときエイズに感染することがある。
15. 食物でエイズに感染することがある。
16. エイズはクシやヘアブラシを共用すると感染することがある。
17. エイズは飛沫感染をすることがある。
18. エイズに感染しないように有効なワクチンができた。
19. エイズは法定伝染病になった。
20. コンドームを使うとエイズに感染する危険は低くなる。

Fig. 1 The questionnaire on AIDS used.

く, dはe, fグループより低かった。この成績の差はアンケート時期から考えることが可能であり, 入学間もない1年生が上級生より低いということ

であろう。またiグループは高年令層の女性で構成されているにもかかわらず, 非医療系学生よりも認識度は高かった。おそらく高年令女性の中でも保健に

Table 1 Tabulation of the questionnaire on AIDS

Group	n	Male	Female	Score			SD
				Max	Min	Mean	
(a)	40	3	37	20	13	17.00	1.54
(b)	44	3	41	20	15	18.09	1.24
(c)	34	5	29	20	16	18.00	1.07
(d)	80	3	77	20	13	17.59	1.36
(e)	85	1	84	20	8	17.76	1.89
(f)	120	1	119	20	14	17.96	1.29
(g)	57	0	57	20	11	16.56	1.84
(h)	185	150	35	20	3	16.49	2.12
(i)	177	1	176	20	9	16.82	1.83

Group(a), freshmen attending to the Tottori University College of Medical Care Technology, Department of Medical Technology; (b), sophomores in the Department as a; (c), juniors in the Department as a; (d), freshmen in the Department of Nursing as a; (e), sophomores in the Department as d; (f), juniors in the Department as d, as well as in the other two nursing schools; (g), freshmen in a non-medical school; (h), seniors in a technical college; (i), aged ladies.

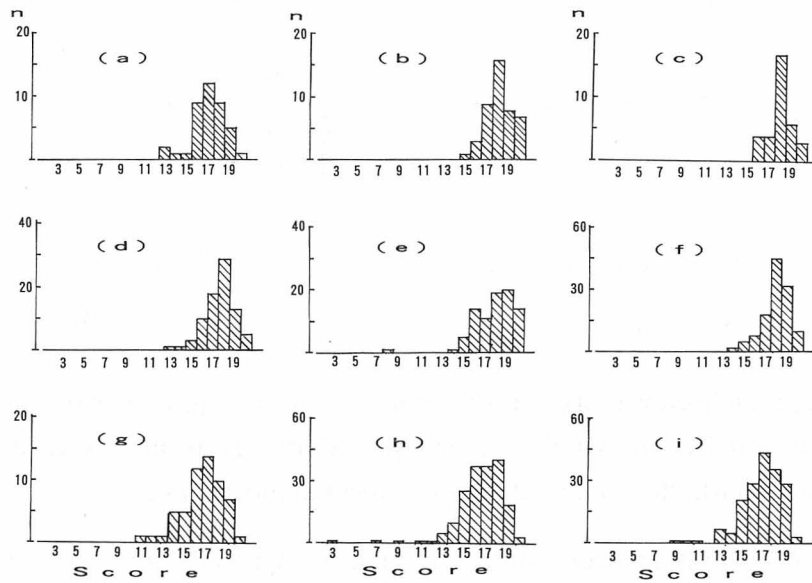


Fig. 2 Distribution of scores as right answer for 20 items in the questionnaire on AIDS in every group.

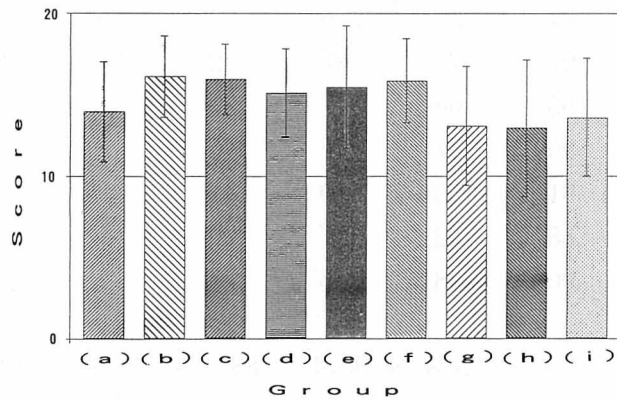


Fig. 3 Histogram for the mean score as right answer for 20 items in the questionnaire on AIDS in 9 groups.

関して関心度の高いグループであることを物語っていると思われる。Fig. 4 はグループ別にみた箱ヒゲ図を示しており、グループの中央値と平均値の差、および得点のばらつきを表したものである。図中+印は平均値を示し、箱の下、内、上に存在する3本の水平点線はおのおの第1四分位点、中央値、第3四分位点を表している。第1四分位点と第3四分位点との距離が四分偏差を示している。箱から1.5四分偏差以内で最も中央値から離れた点まで垂直波線を引いた。箱から3四分偏差までは0印で表し、それ以上に離れた値は*印で示した。図で見るとb、cグループは全員の得点が1.5四分偏差以内のばら

つきのない高得点であることが明らかであった。また平均値の差の検定に関してはbとg間、bとh間およびbとi間に有意 ($p < 0.001$) の得点差が認められた。したがって本学衛生技術学科学生におけるAIDSに関する認識性は高いといえる。Table 2 にアンケート20項目別にみた正答率を示した。問10と15に関しては99%以上を示した。これらの設問はHIVの感染経路に関するものであり、HIVは①性行為による感染、②血液による感染、③母子感染の3種があることから誘導した設問として、HIVはキスによっても、食物を介しても感染しないという認識はすでに出来上がっているとみなせる。問5、11、

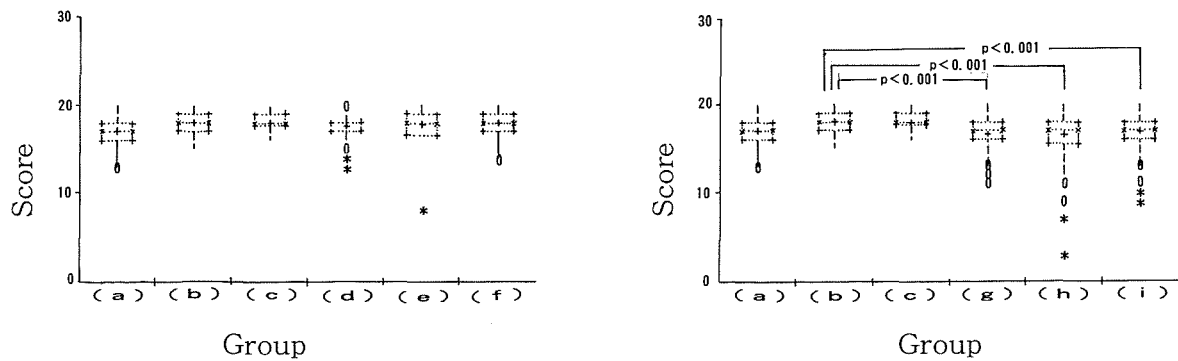


Fig. 4 Box-and-whisker plots for the mean score as right answer for 20 items in the questionnaire on AIDS in 9 groups. Mark(o), from box to 3 times interquartile range; mark(*), more 3 times interquartile range.

Table 2 The right answer rates in 9 groups of people for every item in the questionnaire on AIDS

group	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10
(a)	87	55	92	50	97	95	72	82	82	100
(b)	95	56	100	59	97	95	90	86	84	100
(c)	100	35	91	55	100	97	79	91	91	100
(d)	88	62	97	70	96	82	81	85	92	100
(e)	91	69	96	58	97	91	78	84	74	98
(f)	96	53	99	47	98	85	77	88	95	100
(g)	91	82	91	63	89	73	54	64	80	100
(h)	94	55	88	52	97	90	62	68	74	97
(i)	89	73	90	48	88	75	47	94	80	96
Mean	92.3	60.0	93.8	55.8	95.4	88.1	71.1	82.4	83.6	99.0
SD	4.2	13.5	4.3	7.5	4.1	9.2	14.0	10.1	7.7	1.6

group	No.11	No.12	No.13	No.14	No.15	No.16	No.17	No.18	No.19	No.20
(a)	100	95	77	75	100	85	100	97	55	100
(b)	97	100	86	81	100	93	100	97	86	100
(c)	100	100	82	91	100	100	100	97	88	100
(d)	98	100	77	86	100	82	97	95	66	98
(e)	97	97	82	76	97	91	98	97	96	97
(f)	98	99	76	88	100	89	100	99	94	100
(g)	94	96	78	75	100	80	96	98	47	96
(h)	96	96	85	74	96	86	93	94	45	98
(i)	94	92	89	68	99	88	95	87	79	100
Mean	97.1	97.2	81.3	79.3	99.1	88.2	97.7	95.7	72.9	98.8
SD	2.2	2.8	4.6	7.6	1.5	6.0	2.6	3.6	20.1	1.6

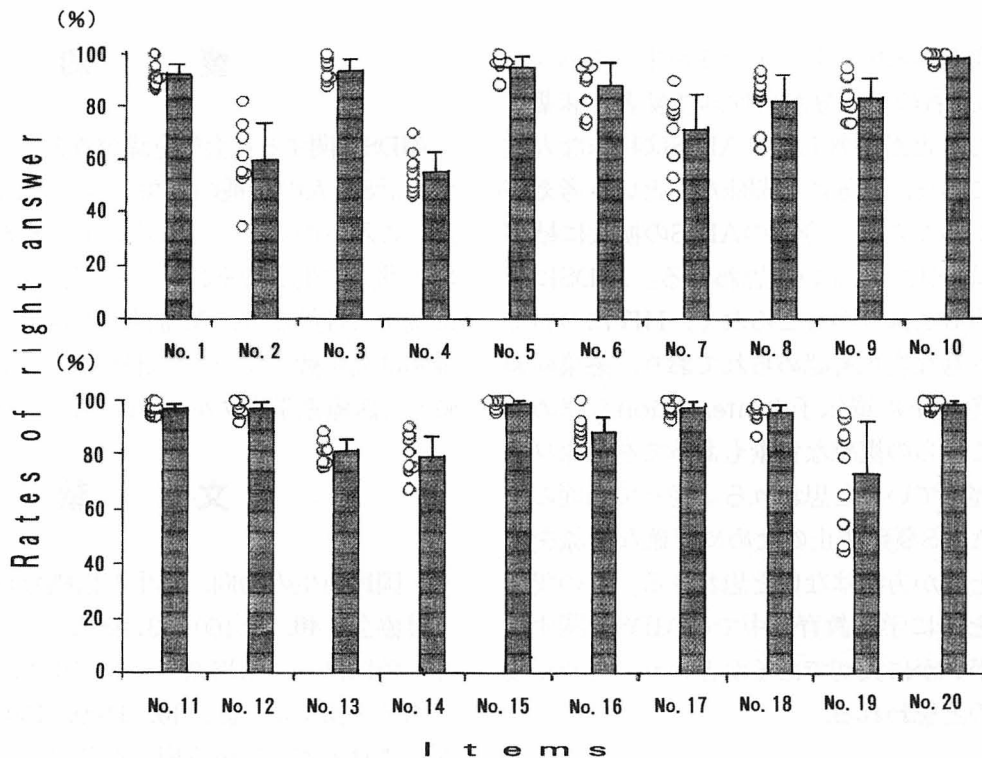


Fig. 5 Histogram for the mean right answer rate for 20 items in the questionnaire on AIDS, and distribution of the right answer rates in 9 groups.

12, 17, 18, 20に関しては95~99%の正答率であった。すなわちHIVに侵されると免疫機能が低下し、風呂やトイレの共用で感染しない、麻薬や覚醒剤等の注射の回し打ちでHIVに感染することがあり、またHIVは飛沫感染しない、HIVの感染をふせぐワクチンはまだ開発されていない、コンドームの使用で性行為感染の危険性が低くなるということについては多くの人が認識していたといえる。問2と4に関する正答率は55~60%と低かった。近年は血液凝固因子剤による感染は少なくなってきており、ほとんど異性間の性行為感染であるにもかかわらず、このことを認識していない人が半数であるということである。これはAIDSに関する初期の報道機関等による報告では男性の同性愛者に特に多くのHIV感染者が存在するとされていた影響であると思われる。またHIV感染者は、5年以内に9割程度も発病すると誤って思っている人が約半数いることになるが、HIV感染後AIDS発症までの潜伏期は5~15年といわれており、無症状期の長いことに対する認識が不足しているように思われる。Fig. 5はアンケート項目ごとにみた正答率の平均値±標準偏差を棒グラフで表し、各グループの示した正答率のプロットを付記したものである。問7と19に関しては正答率が71~73%を示した。したがってHIVの感染力はB型肝炎

炎ウイルスのそれより強いと誤解したり、AIDSが法定伝染病に認定されたと誤解した人がある程度おり、他の設問に比して理解度のばらつきが認められたことになる。ちなみに感染力の強い時期のB型肝炎ウイルスの感染力を100とすれば、C型肝炎ウイルスのそれは10、HIVのそれは1であるといわれている。このほか設問中に具体的な数字の示された項目についてはHIV感染者やAIDS患者の人数が時々刻々と統計調査され、変化してきているところなので、正答の将来の変更の可能性もあると思われる。鎌倉ら³⁾は問6, 8, 14に関しては医学部学生の方が看護系学生に比較して正答率が高いと報告しているが、本調査による全員の平均正答率は鎌倉らによる医学部の学生のそれに匹敵して良い。さらに鎌倉らは問19に関しても、看護系学生で80.9%、医学部学生で87~94%の正答率であることを報告しているが、本調査においては看護学科1年生で66%、衛生技術学科1年生で55%と低く、さらに非医療系学生においては45~47%と低かった。これらのことは非医療系学生への感染症に関する教育が必須であることを意味していると思われ、また医療系学生においても早期の感染症教育が望ましいことを意味していると思われる。

今回のアンケート調査から判明したことはAIDS

に関する認識の導入中にあいまいさが生じており、当初、AIDS患者の大部分が男性同性愛者と麻薬常習者であったことが影響して、AIDSは特殊な人達だけの病気であり、自分には関係ないという考えが無制限に広がったため、今日のAIDSの拡大に結び付いたことは否定できないと思われる。AIDSに対する完全な治療法は今のところなく、HIVについては構造体の容易な変化も認められており、感染経過中に宿主染色体上に遺伝子のintegrationも認められている。これらの複雑な背景もあって有効なワクチン開発も遅れていると思われる。従って当面の対策といえばAIDS蔓延防止のために正確な知識を広げていくことしか方法はないと思われる。この実態にあって、とくに学校教育の中でのAIDSに関する医学的教育がいかに大切であるかということを示唆しているものと思われる。

要 約

AIDSに関する社会的意識調査をアンケートによって合計822人の各種の対象グループに対して実施した。これらのグループには高年齢婦人層および数校の短期大学生が含まれている。調査対象全員のAIDSに関する理解度は、80%以上で高かった。中でも意識率は高年齢グループ、非医療系学生グループに比較して医療系学生グループにおいて有意に高かった。

文 献

- 1) 国民衛生の動向, 厚生指標臨時増刊, 厚生統計協会, **40**, pp160-163, 1993.
- 2) 曾田研二, 市川誠一, 福富和夫, 橋本修二, 日本公衆衛生学会誌, **10**, 1109, 1993.
- 3) 鎌倉光宏, 島田直樹, 近藤健文, 桜井治彦, 日本公衆衛生学会誌, **39**, 965, 1992.

(受付 12. 7. 1993)

Summary

Social awareness of AIDS was surveyed with a series of questionnaires among various groups of total 822 people, including aged ladies and collegians in several schools. All the groups were revealed to be aware of a horrible disease of AIDS at a percentage of more than 80. Certain groups of collegians in a collateral, medical school were significantly aware of that, compared with groups of aged ladies or collegians in non-medical schools.